

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>●学力向上・・・話し合う活動、ICTの活用を授業に取り入れ、生徒の主体的・対話的な学びにつながる授業づくりの実践に取り組むことができた。授業と家庭学習をつなげるSAの取り組みの効果が表れてきた。継続して授業改善および、家庭学習の定着と充実の推進を図る。</p> <p>●心の教育・・・生徒指導、いじめ防止対策、特別支援教育の充実のために情報共有、共通実践を行い一定の成果を得ることができた。今後は、道徳の授業づくりおよび充実の推進を図っていく。</p> <p>●健康・体づくり・・・生徒の意識向上及び実践力につながる効果的な手立てが必要であるため、今後は、生徒会活動等を通して取り組んでいく。</p> <p>●働き方改革・・・定時退勤日、適正な部活動運営(休養日の設定)が定着してきた。在勤時間の縮減のためにさらなる意識改革と業務改善に継続して取り組む。</p> <p>●特別支援教育の推進・・・研修会を通して特別支援教育の在り方について職員の理解を深めることができた。具体的な手立ての在り方や支援体制について確認し、全職員で取り組む。</p>	
2 学校教育目標	心豊かでたくましく、志をもつ生徒の育成	
3 本年度の重点目標	<p>○確かな学力・・・校内研究の充実(授業改善、タブレットPCの効果的な活用) ・家庭学習の充実(SAの取り組み) ・キャリア教育</p> <p>○豊かな心・・・道徳科授業の充実 ・人権・同和教育の充実 ・年間を通じた取り組み(「心をはぐくむ集会」「命と生き方を考える週間」等) ・体験活動の充実</p> <p>○健やかな体・・・生活リズムの確立 ・食育の推進 ・感染症予防対策の徹底 ・部活動の充実</p> <p>○生徒指導の充実・・・開発的生徒指導(自己肯定感や自己有用感の育成) ・いじめのない学校・学級づくり ・教育相談体制の充実 ・校則の見直し ・生徒会活動の充実</p>	<p>○地域との連携・・・情報発信 ・地域人材の積極的活用 ・コミュニティスクールの推進</p> <p>○家庭の教育力・・・食生活、生活リズムの確立 ・情報モラルの推進 ・「山代っ子の約束」の徹底</p> <p>○小中連携・・・中1ギャップの解消 ・立腰教育の推進 ・授業交流会</p> <p>○働き方改革・・・定時退勤日の徹底 ・効率の良い働き方の推進</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・「山代メソッドシート」を活用した継続的な授業改善 ・ICTを活用した授業づくりと教材研究及びタブレットPCを活用した学習活動の設定						
	◎家庭学習の習慣化を図る取り組みと啓発	○「自分で計画を立てて勉強をしている。」の質問に肯定的な回答をする生徒が70%以上	・「家庭学習シート」を活用した家庭学習習慣の定着と学力の向上を図る。						
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒アンケートにおいて、「道徳の学習で自分のことに置き換えて考えることができた」と答えた生徒が80%以上。また、「道徳で学んだことは生活の中で生かしている」と答えた生徒が70%以上。	・学年職員でローテーションを組んで授業実践を行い、相互に参観する。 ・学校行事や部活動等学校教育全般において指導や声かけを行う。 ・「伊万里っ子しくさ」を活用する。						
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止等のための取り組み、事案対処等)について組織的対応ができていると回答をした教員100%	・生徒に対する密着指導を徹底し、またアンケートや教育相談の充実によって「いじめ」に対する取り組みに全職員で取り組む。						
	◎いのちの教育の推進	○生徒アンケートで「学校は、安全で楽しいと思う。や命や生き方を考える機会がある。」という項目で肯定的な回答をした生徒90%以上	・栗原史好先生「命の文庫」の本を充実させ、生徒に紹介する。 ・「命と生き方を考える週間」への取り組みの充実を図る。						
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○早寝(23時まで就寝)の達成率が70%以上 ○スマートフォンやタブレット端末の1日の利用時間2時間未満が70%以上	・学級便り、保健便り等で毎月の集計結果を掲載し、家庭への協力を呼びかける。 ・生徒会保健部で早寝クラスマッチを実施する。						
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒70%以上	・GCカードの朝食の部分の達成率が全校生徒のパーセント70%以上を占める。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。業務記録による時間外在職等時間80H以上をOにする。	・部活動休養日、定時退勤日を確実に設定する。 ・生徒完全下校後1時間をめどに退勤するよう呼びかける。 ・ICTの効果的活用とOJTおよび組織的対応の推進を図る。						

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の推進	○職員の専門性の向上と生徒理解 ○具体的な手立てと体制づくり	・特別支援教育に関する専門性が向上した教職員の割合を80%以上にする。 ・生徒理解に基づく合理的配慮ができた教職員100%を目指す。	・職員研修会、支援会議などを適宜実施し、共通理解を図る。 ・特別支援学級担任の部会を定期的に開催する。						

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・
--------------------	--------